

## 3つのポリシー(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)

建学の理念	「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応じていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。
大学の教育理念・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。</li> <li>・他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。</li> <li>・言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献しうる人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。</li> </ul>
学部(学科)の人材養成目的	<p>(外国語学部) 高度で実践的な言語運用能力の構築を行うのみならず、諸外国・地域に関する知識、言語・文化・歴史・宗教等を異にする人々との共生を志向する国際感覚、豊かな専門知識と幅広い視野を兼ね備えた人材の育成を目的とします。</p> <p>(英語・デジタルコミュニケーション学科) 高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、数理・データサイエンスの理解、ならびに豊かな専門知識を育むことにより、デジタルツールを駆使し、国際社会で活躍できる人材の育成を目的とします。</p>
学位授与の方針(DP)	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語学)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人文科学及び社会科学の英語による文献および情報を収集・理解し、自らの意見を主体的かつ論理的に構築でき、効果的な発信が英語でできる。</li> <li>2. デジタル分野において、豊かな知的探求心と独創的な発想力を養い、柔軟な国際感覚を身につけている。</li> <li>3. 多文化共生に貢献できる教養と課題発見力・解決力を身につけ、率先して地域社会および国際社会に貢献・活躍できる。</li> </ol>
教育課程の編成・実施の方針(CP)	<p>[教育課程の編成にかかる基本方針] 本学科では、ディプロマ・ポリシーにもとづき、専門教育科目と全学共通教育科目を体系的に編成し、開講します。 ・専門教育科目を専門必修科目と専門選択科目に区分し、基礎から発展、完成へと卒業まで順次的・体系的に学修を行えるようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門必修科目では、英語の4技能を伸ばし、人文科学・社会科学の英語文献を正確に理解し、英語による表現力の向上をめざします。</li> <li>(2) 専門選択科目では、英語とデジタルに関する知識とスキルの深化をめざすとともに、論理的思考力や数理的推論・データ分析力、柔軟な国際感覚、英語による情報収集力・発信力の獲得をめざします。</li> <li>(3) 全学共通教育科目では、幅広い教養を獲得し、キャリア意識の形成を促します。</li> </ol> </li> <li>2. 教育方法について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門必修科目においては、学修コーディネーションコミッティの下、Content-Based Instruction(内容重視の教授法)を用いた英語学修を行います。</li> <li>(2) 専門必修科目では、外部試験による客観的な指標により少人数のクラス編成を行い、各自のレベルに応じた英語学修を行います。</li> <li>(3) 専門選択科目のデジタル系科目においては、デジタルツールを用いた体験型授業を実施します。</li> <li>(4) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。</li> <li>(5) クラスアドバイザー制度により、順次的・体系的に学修が行えるように支援ならびに指導を行います。</li> <li>(6) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、幅広い知識と豊かな国際感覚を身につけます。</li> </ol> </li> <li>3. 学修成果の評価について 学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 修得科目、留学、インターンシップ・ボランティアの体験、外部試験の成績およびクラスアドバイザーによる面談などを記録するポートフォリオにより、4年間の学修成果をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。</li> <li>(2) 長期留学にかかる英語力については、TOEFLなどの英語外部試験の客観的な指標を設け学修成果を検証します。</li> </ol> </li> </ol>

## 3つのポリシー(外国語学部英語・デジタルコミュニケーション学科)

入学者受入れの方針(AP)

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

### 1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

- (1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人
- (2) 実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、デジタル分野における知的探求心や発想力を養い、グローバル社会において柔軟な国際感覚を身につけようとする積極的な姿勢や情熱を持つ人
- (3) 何事にも積極的に取り組めるチャレンジ精神を持ち、国際社会で活躍できるキャリア形成をめざす強い意志を持つ人

### 2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

#### (1) 一般選抜

##### ア. 一般入試

個別学力検査(外国語、国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。

##### イ. 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストの得点により評価します。

#### (2) 学校推薦型選抜

ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ. 指定校制推薦入試においては、書類選考および口頭試問(面接)を総合して評価します。

#### (3) 特別型選抜

ア. 社会人入試においては、書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。

イ. 帰国生徒入試においては、筆記試験(英語、小論文)および口頭試問(面接)を総合して評価します。

2023年4月1日施行(2022年9月1日制定)